

開業15周年を迎えた2016年度、ソニー銀行はお客様の住宅資金ニーズに積極的にお応えすることで業容を大きく拡大し、将来の収益基盤を強化しました。



2016年度の日本の金融市場は、日本銀行が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を9月に導入し、積極的な金融緩和姿勢が維持されました。長期金利の指標となる新発10年物国債利回りは秋にかけてマイナス圏で推移し、金融機関にとっては大変厳しい市場環境となりました。海外においては、大方の市場予想を覆す結果となった英国国民投票や米大統領選挙もあり、世界経済の先行き不透明感が広がりました。

このような中、ソニー銀行は金利の一段の低下を背景に高まった住宅ローンの借り換え需要に積極的にお応えしました。これにより、住宅ローンの年間実行金額は過去最高を更新し、2016年度末の貸出金残高は前年度末比1,954億円増加の1兆5,396億円となりました。日本円・米ドル・ユーロなど11通貨に対応するVisaデビット付きキャッシュカード『Sony Bank WALLET(ソニーバンク・ウォレット)』をきっかけに口座を開設するお客さまも増え、預金残高も円、外貨ともに増加し同1,894億円増加の2兆1,129億円となりました。

業績面については、住宅ローン残高の積み上がりにより貸出金利息が増加したことなどから、連結の経常収益は前年度比5億円増加の385億円となりました。経常利益は、金利が低水準で推移したことに加え、住宅ローンについて案件増加に伴う初期費用が膨らんだ影響もあり、同9億円減少の50億円となりました。

商品・サービスの改善には、Sony Bank WALLETを中心に取り組みました。2016年4月には、スマートフォンで取引履歴などを便利に確認することのできる『Sony Bank WALLET アプリ』を導入しました。また、「子供の海外留学などでSony Bank WALLET を利用したい」といったお客さまからのご要望にお応えするため、15歳以上の未成年のお客さまにも外貨決済をご利用いただけるよう、11月にサービスを拡張しました。

ほかにも、貯めた外貨預金をより積極的に運用する選択肢として、投資対象の多彩な米ドル建てアクティブ運用ファンドの販売を10月より開始し、運用商品の拡充を図りました。さらに2017年1月には、新たな優遇プログラム『Club S(クラブエス)』を開始し、より多くのお

客さまにお振り込みやATM利用手数料などの優遇特典をご利用いただけるよう改善しました。

ソニーグループやソニーフィナンシャルグループとの連携も積極的に推進しています。2017年3月には、株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントと提携し、Sony Bank WALLET / "PlayStation" デザインの発行を開始しました。同時に、PlayStation® 公式オンラインストアでの支払いにSony Bank WALLETを利用すると、利用額の2%を毎月キャッシュバックする新たな特典も追加しました。4月に入ってからとなりますが、株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所が蓄積してきた人工知能の一部を用いて開発した資産形成シミュレーションツール『ほしいものナビBeta』の提供も開始しています。また、ソニー生命保険株式会社のライフプランナーがソニー銀行の銀行代理業者として取り扱う商品に外貨預金やSony Bank WALLETなどを追加し、お客さまからの幅広いご要望に対面でお応えできる体制も構築しています。

ソニー銀行はお客さまにとってより身近なインターネット銀行となることを目指し、主力商品である外貨預金と住宅ローンを戦略的に強化し業容の拡大に努めてまいります。あわせて、社内オペレーションの見直しなどを通じて業務効率の改善を図り、持続的な利益成長を実現してまいります。

2001年6月の開業当初とは異なり、今やインターネットによる金融取引は広く社会に浸透しました。こうした時代の流れを追い風に、ソニーグループならではの最新技術をもってユニークな商品・サービスを創り出し、お客さまへ新しい価値を提供できるよう一層取り組んでまいります。今後ともよろしく願いいたします。

ソニー銀行株式会社
代表取締役社長

佐野雄一郎